

第5章 第2次実施計画の推進に当たって

- 1 事業・取組の実施に係る目標設定と進捗管理
- 2 来園者ニーズの把握と市民参加の促進
- 3 今後の来園者数と収支の見込み
- 4 SDGs、生物多様性国家戦略との関係
- 5 第3次実施計画に向けた検討について

1 事業・取組の実施に係る目標設定と進捗管理

本実施計画に基づいて円山動物園が行う 24 の事業・取組については、「良好な動物福祉の確保」、「保全」、「教育」、「調査・研究」、「リ・クリエーション」という分野を越えて連携して進めるものであり、それらの質・量を代表させる成果目標を設定することとして、下表のとおり事業・取組を総括する数値目標を掲げ進捗管理を行います。

なお、円山動物園では来園者数や収支に関する数値は目標としておりません。

【数値目標一覧】

重点取組 の分野	R10（2028）年度の数値目標	モニタリング方法
動物福祉	動物福祉評価の全項目のうち「×：改善が必要」「△：改善の余地がある」と評価された項目の割合：全項目の5%以下（※） 参考：R4（2022）年度評価：21.2%	動物福祉評価結果の集計
保全	放鳥・モニタリングするオオワシの累計数：5羽	放鳥実施数及びGPSによる追跡
保全	認定動物園等への研修会実施件数：年2回	—
教育	園内イベントへの参加を通じて生き物と人との関わり大切さを理解した人の割合：100%	園内イベント参加者へのアンケート
調査研究	ホームページ掲載の調査研究報告書等の閲覧回数：毎年増加	HP アクセス数統計データの参照
リ・クリエーション	円山動物園を他の人にも勧めたいと答えた人の割合：75% 参考：R4（2022）年度 63%	来園者へのアンケート
リ・クリエーション	円山動物園にまた来たいと回答した人の割合：79% 参考：R4（2022）年度 74%	来園者へのアンケート
基盤整備	持続可能な運営手法の導入検討	新しい運営手法の導入の公表
施設整備	園内施設の修繕必要件数：73 か所 参考：R4（2022）年度 169 か所	修繕必要箇所の確認
施設整備	施設保全計画の策定	策定
施設整備	北海道ゾーン基本方針策定に向けた調査研究の実施	調査研究の実施

上記の数値目標の進捗状況及び第4章「施設整備」に係る取組状況については、市民動物園会議において定期的に報告するとともに、ホームページ等において公表いたします。

（※）動物福祉評価について：34ページのコラム参照

2 来園者のニーズの把握と市民参加の促進

円山動物園には、子どもから高齢者まで、札幌市民のほか、海外も含め道内外から多くの方々に来園していただいています。これまで実施してきた来園者アンケートを改善しながら継続するとともに、インターネットアンケートなども活用し、迅速に必要なニーズを把握し、動物園の魅力向上につなげていきます。

また、来園者が単に円山動物園が実施する動物情報の普及啓発イベントや動物の愛称決定等に参加するだけではなく、円山動物園の取組に共感し賛同する市民が、ボランティア活動、寄付等によって取組を支援することができる機会をこれまで以上に創出していきます。

【これまで実施してきた来園者ニーズの把握のための取組の例】

- ホームページへのお問い合わせフォームによるご意見募集
- 園内へのご意見箱（意見を記入した紙を投函できる箱）の設置
- 来園者アンケート（イベント参加者へのアンケートも含む）
- 各種計画を策定する際のパブリックコメントの実施

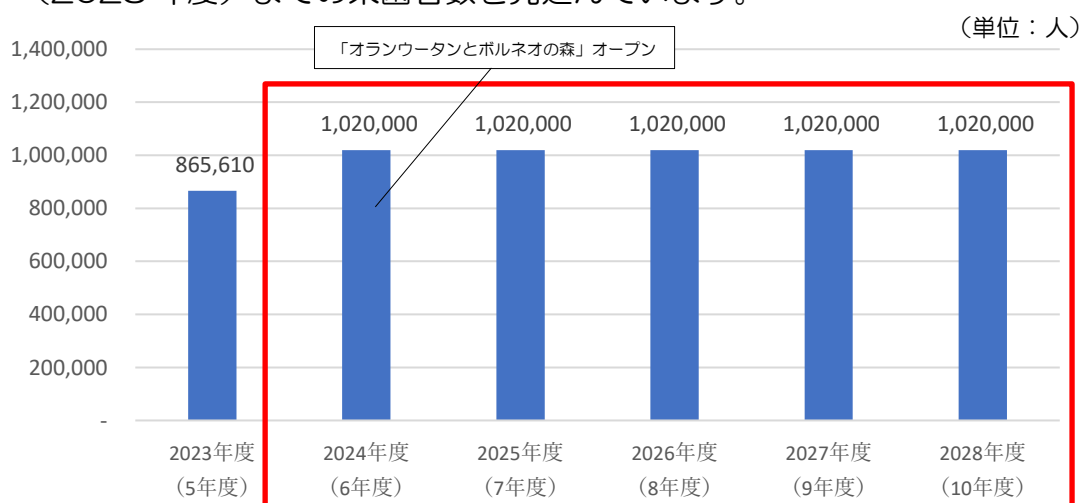
【これまで実施してきた市民参加の機会を創出する取組の例】

- 動物や生息環境の普及啓発イベント（清掃・塗装・外来種駆除等の活動含む）の実施
- 円山動物園ボランティア・動物園の森ボランティアへの参加
- 市民動物園会議委員への応募・会議参加
- 野生動物や地球環境の保全を行う団体等への募金活動（募金箱設置）への協力
- さっぽろ円山動物園サポートクラブの寄付自動受付機器の設置
- 円山動物園の運営への寄付（現金・物品）、動物園応援基金への寄付（現金）受付

3 今後の来園者数と収支の見込み

（１）今後の来園者数の見込み

これまでの来園者数実績及び今後の新たな増減要素により、令和 10 年度（2028 年度）までの来園者数を見込んでいます。



令和6年（2024年）春に、オランウータンを飼育展示する新施設オランウータンとボルネオの森がオープンする予定のため、令和6年度（2024年度）は過

去 10 年で最も来園者の多かった年の約 102 万人と見込み、その後も同水準で推移することを見込んでいます。

なお、今後の来園者数については、天候の影響や動物の繁殖などによる影響のほか、第3章に掲げる事業・取組の効果により変動する可能性があります。

(2) 今後の収支の見込み

円山動物園では、今後、有料来園者の増加に向け、SNS による情報発信や動物専門員によるガイドの充実などの取組を強化していきます。

また、企業との連携の強化や、一定額の寄付金及び広告料収入が継続的に得られる運営づくりを進めていきます。

ア 収入見込み

(単位：千円)

	2023年度 (5年度)	2024年度 (6年度)	2025年度 (7年度)	2026年度 (8年度)	2027年度 (9年度)	2028年度 (10年度)
入 園 料	397,773	452,408	452,408	452,408	452,408	452,408
売 店 等 使 用 料	8,548	8,672	8,672	8,672	8,672	8,672
有 料 プ ロ グ ラ ム	300	180	180	180	180	180
寄 付 金	7,469	5,986	5,986	5,986	5,986	5,986
広 告 料 収 入	2,237	837	837	837	837	837
そ の 他 収 入	14,072	39,490	39,490	39,490	39,490	39,490
計	430,399	507,573	507,573	507,573	507,573	507,573

令和6年度(2024年度)は、令和6年春オープンのオランウータンとボルネオの森による魅力向上により、入園料収入が前年度と比較し5%増加すると見込んでいます。なお、新型コロナウイルス感染症の影響が薄れたことなどから、その他収入のうち駐車場収入からの繰り入れが増加しています。

イ 支出見込み

(単位：千円)

	2023年度 (5年度)	2024年度 (6年度)	2025年度 (7年度)	2026年度 (8年度)	2027年度 (9年度)	2028年度 (10年度)
人 件 費	466,571	479,386	479,386	479,286	479,286	479,286
需 用 費	279,825	319,805	319,805	319,805	319,805	319,805
委 託 料	272,360	311,814	333,514	309,814	309,814	309,814
役 務 費	9,131	9,029	9,029	9,029	9,029	9,029
使 用 料 及 び 賃 借 料	15,675	18,141	18,141	18,141	18,141	18,141
負担金補助及び交付金	1,966	777	777	777	777	777
整 備 費	41,937	121,386	38,386	38,386	38,386	38,386
減 価 償 却 費	458,576	451,258	451,258	447,495	442,830	435,239
そ の 他	1,341	3,937	3,937	3,937	3,937	3,937
計	1,547,382	1,715,533	1,654,233	1,626,670	1,622,005	1,614,414

オランウータンとボルネオの森などの施設改修がいったん終了したことから、令和7年度(2025年度)以降は維持管理費が平常化する見込みです。

ウ 収支差見込み

(単位：千円)

	2023年度 (5年度)	2024年度 (6年度)	2025年度 (7年度)	2026年度 (8年度)	2027年度 (9年度)	2028年度 (10年度)
収入	430,399	507,573	507,573	507,573	507,573	507,573
支出	1,547,382	1,715,533	1,654,233	1,626,670	1,622,005	1,614,414
収支差	▲ 1,116,983	▲ 1,207,960	▲ 1,146,660	▲ 1,119,097	▲ 1,114,432	▲ 1,106,841
入園料	397,773	452,408	452,408	452,408	452,408	452,408
支出に占める入園料の割合	25.7%	26.4%	27.3%	27.8%	27.9%	28.0%

円山動物園では、様々な経費削減の取組を継続して進めていきます。そして、個人や企業からの寄付金を一定額受けられるよう取り組みながら、経費の節減に努めて収支差の縮減を図ります。こうした取組を重ね、動物福祉に配慮しながら将来にわたり安定的な動物園運営を実現していきます。

なお、動物園応援基金に積み立てる寄付金（ふるさと納税含む）は増加傾向にあります。今後の推計は下表のとおり見込んでいます。

<参考> 2023年度以降の動物園応援基金の推計

(単位：千円)

	2023年度 (5年度)	2024年度 (6年度)	2025年度 (7年度)	2026年度 (8年度)	2027年度 (9年度)	2028年度 (10年度)
積立額 (A)=(a)+(b)	116,576	144,000	144,000	144,000	144,000	144,000
(内訳) ふるさと納税(a)	75,039	132,000	132,000	132,000	132,000	132,000
円山動物園への直接寄附(b)	41,537	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000
取崩額 (B)=(c)+(d)	0	17,000	18,000	20,000	20,000	20,000
(内訳) 施設改修等(c)	0	15,000	16,000	18,000	18,000	18,000
札幌市認定動物園支援(d)	0	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
前年度基金残高 + (A)-(B)	225,018	352,018	478,018	602,018	726,018	850,018

※令和5年度は実績値。なお、利息は含みません。

令和6年度は当初予算の要求額。

令和7年度から令和9年度はアクションプラン2023の計画事業費。

令和10年度は令和9年度と同額。

4 SDGs、生物多様性国家戦略との関係

(1) 第2次実施計画の事業・取組とSDGsとの関連一覧

ビジョン 2050 では SDGs の目標のうち、生物多様性の損失の阻止を目指す「15 陸の豊かさを守ろう」を筆頭に、動物園の活動と関わりの深い「4 教育」「6 水・衛生」「7 エネルギー」「12 生産・消費」「13 気候変動」「14 海洋資源」に関連した取組を実施することとしています。

15	陸の豊かさを守ろう 	
4	質の高い教育をみんなに 	12 つくる責任 つかう責任 
6	安全な水とトイレを世界中に 	13 気候変動に具体的な対策を 
7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	14 海の豊かさを守ろう 
	関連する取組み ・ 北海道の野生動物保全事業 ・ 動物園の森の活用 ・ さっぽろの動物園ステップアップ制度 ・ 北海道の種の保全を目的とした調査・研究	
	関連する取組み ・ 動物園教育推進事業 ・ 動物園を活用した子どもの健全育成支援 ・ ホッキョクグマ保全推進事業	関連する取組み ・ 園内で排出されるゴミの削減に向けた取組
	関連する取組み ・ 北海道の種の保全を目的とした調査・研究 ・ 園内で排出されるゴミの削減に向けた取組	関連する取組み ・ 省エネルギー対策・再生可能エネルギー導入の推進 ・ ホッキョクグマ保全推進事業 ・ 動物園教育推進事業
	関連する取組み ・ 省エネルギー対策・再生可能エネルギー導入の推進	関連する取組み ・ 北海道の種の保全を目的とした調査・研究 ・ 園内で排出されるゴミの削減に向けた取組

(2) 生物多様性国家戦略との関係について

令和4年（2022年）12月に生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）にて採択された「昆明・モントリオール生物多様性枠組」を踏まえ、我が国においては令和5年（2023年）3月に「生物多様性国家戦略 2023-2030」が閣議決定されました。札幌市では、生物多様性基本法第13条に基づく地域戦略として「生物多様性さっぽろビジョン」が位置付けられており、生物多様性国家戦略との整合が取られています。

ここでは本計画と生物多様性さっぽろビジョンとの関連事業を整理します。

なお、円山動物園では、さっぽろの動物園ステップアップ制度実施要綱に定められている保全活動連携協議会及びその準備会における連携を通じて、生物多様性さっぽろビジョンの取組を推進しています。

1 生物多様性の保全に関する目標

2050年目標	多様な動植物が生息、生育する豊かな自然環境が適切な管理により保全されており、各ゾーンがあるべき姿を保っています。また、野生鳥獣とのあつれきが減少し、外来種の生息が抑制されています。
---------	--

(3) 外来種対策

・北海道の野生動物保全事業、動物園の森の活用

(4) 野生鳥獣とのあつれき対策

・北海道の種の保全を目的とした調査・研究

(6) 生物調査の継続的な実施

・動物園の森の活用、北海道の種の保全を目的とした調査・研究

2 生物多様性の理解に関する目標

2050年目標	生物多様性を理解している市民が増えています。
---------	------------------------

(1) 各種イベント等による啓発・情報発信

(2) 施設における展示等による啓発

(3) 学校教育との連携事業、環境教育

・円山動物園教育推進事業、動物園の森の活用、ホッキョクグマ保全推進事業

3 生物多様性に配慮した行動の実践に関する目標

2050年目標	生物多様性に配慮した行動をする市民、企業、活動団体が増えています。
---------	-----------------------------------

(1) 各主体による行動実践

・ガイドボランティアの接客及びガイド技術向上、動物園の森の活用、動物園教育推進事業、ホッキョクグマ保全推進事業

(2) 企業、施設との連携事業

・民間企業等のCSR活動等との連携、北海道の野生動物保全事業

※番号は「生物多様性さっぽろビジョン（令和6年（2024年）策定）」第9章に記載の2050年目標のものです。

5 第3次実施計画に向けた検討について

第2次実施計画の実施期間終了後には、次期計画である第3次実施計画を開始することとなります。

札幌市の中期実施計画である「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンアクションプラン 2023」の次の計画を見据え、令和7年度（2025 年度）より各事業・取組のとりまとめや骨子案の作成に着手し、令和9年度（2027 年度）からは、次期計画における「飼育展示していく動物種」についても見直しを行います。

また、ビジョン 2050 に掲げる持続可能な動物園運営を実現することを目指し、第2次実施計画では経営基盤の安定化に関する調査・検討等を着実に実施し、その結果を踏まえた計画を検討していきます。

【第3次実施計画に向けた検討スケジュール】

年度		2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
札幌市中期実施計画		まちづくり戦略ビジョン アクションプラン2023				
円山動物園	基本方針	札幌市円山動物園基本方針ビジョン2050（～2050年）				
	実施計画	第2次実施計画 各年度事業・取組の進行管理				
			第3次実施計画 園内取りまとめ・骨子案策定			庁内調整・ パブリックコメント
経営基盤の安定化に 関する取組		他園館の 事例調査	運営手法の 検討	必要な手法の 導入準備	新しい運営手法 の導入	
施設整備関係		施設保全計画設計	策定			
		北海道ゾーンに関する調査研究				
		動物園全体の施設整備計画の検討				
飼育動物関係		単年度(短期)目標 作成・評価			飼育展示する 動物種の見直し	単年度(短期)目標 作成・評価